

ニューレンズシナリオ 2013

角和 昌浩 (かくわ まさひろ)

シェルは、2013年に発表したグローバルシナリオ作品「ニューレンズシナリオ 2013」で、マウンテンズとオーシャンズという2つのシナリオストーリーを発表した。この作品には深刻なメッセージが書き込まれていた。どちらのシナリオも地球温暖化の緩和を目指す「2°C未満目標」に届かないのだ。当時、シナリオチームは、現時点の我々の世界は社会的・経済的・政治的に低炭素社会という規範的目標を目指しているとは思えない、と認識した。そこで公開の場でディスカッションをはじめたのだが、この問題提起は世の中に受け入れられたとは言い難い。気候変動問題で活動するNGO/NPOは、マスコミと共に、一斉に「シェルは低炭素社会にコミットしていない。2°C目標に後ろ向きだ」と攻め立てた。

1. はじめに

最初に今回投稿の道筋を示します。

- ①シェルは、数年に一度、グローバルシナリオを作成し、公表する。これは世界大の、主に社会システム全体を扱っているシナリオで、未来世界の政治・社会・経済・国際関係や技術進歩等のありようを、いくつか複数の姿に描き分ける。エネルギー／気候変動問題は、社会全体シナリオの中に包摂して叙述される。
- ②サステナビリティ、すなわち持続可能な開発の思想は、気候変動問題に限らず、様々な社会経済課題を含んだ世界大の社会システム全体の挙動を考えようとしており、これはシェルの姿勢と一致している。
- ③前回投稿から、歴代グローバルシナリオの中で気候変動問題がどのように扱われてきたのか、を語り始めている。

前回は、2008年に公表された「Shell energy scenarios to 2050（「エネルギーシナリオ 2008」と略称）」を紹介した。シナリオチームは、スクランブルとブループリンツという2つの未来を描き分け、両シナリオは同程度に現実化する可能性がある、と書いた。これを受けてシェルグループの最高経営責任者ジェロム・ファンデル・フィエールは、2008年1月25日に注目すべき演説をした。曰く、「シェルグループは、伝統的にシナリオ作品を取り扱う際、どちらのシナリオが自分自身にとって好ましいか、という見解を持つことを意図

的に控えてきた。だが、わたくしは、シェルグループに投資しているひとびとや私たちの子孫たちのことを考えると、ブループリンツシナリオは、経済活動とエネルギーと環境問題のよりよきバランスをもたらすもの、と信ずる」と語った。

- ④今回投稿では、次のグローバルシナリオ、「ニューレンズシナリオ 2013」の中で考察されたエネルギー／気候変動問題を辿ります。

2. 「ニューレンズシナリオ 2013」の位置

2.1 グローバルシナリオの系譜

シナリオチームが「ニューレンズシナリオ 2013」の作成にとりかかったのは2011年ころで、最終版の発表までに2年をかけた。

前作品は2008年4月の「エネルギーシナリオ 2008」である。すなわち「エネルギーシナリオ 2008」の賞味期限は5年だった。

さらに、「ニューレンズシナリオ 2013」の次のグローバルシナリオは、2021年2月に発表された「The Energy Transformation Scenarios（「エネルギー変革シナリオ 2021」と略称）」である。「ニューレンズシナリオ 2013」の基本ロジックは、8年間、保持されたわけである。

2.2 つなぎの作品

「エネルギーシナリオ 2008」を補足しつつ、時代の推移をとりこみ、そして「ニューレンズシナリオ 2013」へとつないでゆくための小ぶりの作品が作